



コラム

JUMMS カルテ検索について

坂総合病院 QI 委員 医療情報企画センター 堀 明子



みなさん、JUMMS（病院総合マネジメントシステム）は使っていますでしょうか。機能のひとつに「カルテ検索」があります。キーワード「〇〇」を条件に入れて検索すれば、キーワードの記載がある記事が抽出されるようになりました。ただし、キーワードの入れ方によっては、自分の探したい記事になかなか見つからない場合があります。「副作用」症状の有無を探したい時、「副作用」で検索すると、「～が心配」「～について説明」「～に注意」など違った記事も含まれ、さらに副作用があった人を知りたい時、キーワード「副作用 あり」とすると「有」「有り」「あった」「〇〇服用で、はさけ。」などは抽出からはずれてしまいます。

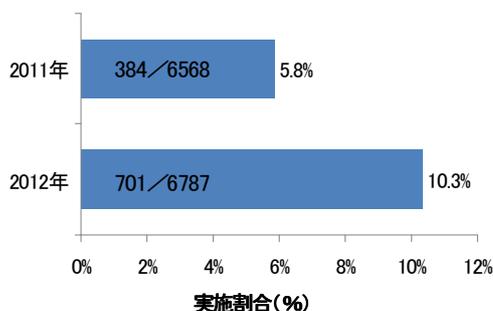
今後はデータ活用や記録整備の視点でいえば、入力する側でも記録の統一やワードパレット・テンプレートの活用など工夫が必要になってくるのではないかと思います。

それに関連して、現在全日本民医連 QI 推進事業の提出 QI 項目のうち「職業歴記載率」「コメディカル参加のカンファレンス記録」「身体抑制」等の記載方法について、検討が進みつつあります。

最後に、ひとつご紹介。カルテ検索で抽出後、記事該当一覧で患者 ID 順日付順にしたい場合は、「患者 ID」（項目名）の上でクリック。次に「日付」（項目名）の上で「Ctrl」を押しながらクリックしますと並び替えられます。メールや議事録の一覧などでも、複数キーの並び替え時は同様です。試してみてください。

指標紹介 ケアカンファレンス実施割合

ケアカンファレンス実施割合



入院している患者さんには主に医師や看護師が関わりますが、それ以外にも多くの職種がその専門を生かして働いています。病気のことを考えるといても、年齢や体力、食事や生活環境など多くの事柄が関わってきます。

したがって現在では、複数の職種で患者さんの抱える問題を包括的に把握して治療やケアの方針を決めることが推奨されています。

特に高齢化社会を迎えその必要性は高まっています。30日以内の再入院を検討しているように、準備不足で退院するとまた入院してしまうことになりかねません。入院中に医師や看護師だけでなく栄養士やリハビリテーションスタッフあるいはケアマネジャーなどが加わるカンファレンスがどの程度行われているかを知るための指標がこのケアカンファレンス実施割合です。私たちの医療がどのようなチームワークで行われているかを知るための医療の質を表す指標です。

全日本民医連のデータと比べると当院はかなり低い値となっています。この2012年のデータで300床以上、DPC病院、基幹型臨床研修病院という条件を満たす14の病院の中でも下から2番目の値となっています。医療活動の性格の影響を受けるとはいえ、似たような性格の病院の中でも低い方に位置するのではと推測されます。チームワークのあり方についておおいに改善の余地がありそうということになります。算出方法も問題になります。当院ではカルテにケアカンファレンスを行ったかどうかのカルテ記載を探してそれを数えて算出しています。言い訳になりますが、すべてのカンファレンスを数えきれているかどうかにも気になります。いずれにせよ、当院はその実施状況やカルテ記載そして算出の仕方などを今後見直していかなければなりません。

QI 委員会委員長 富山陽介

シリーズ“統計のはなし” No.6

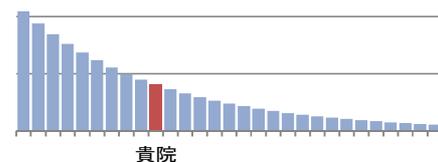
第6回目は「読みやすいグラフ」がテーマです。

グラフの種類にはそれぞれ意味がありました（第3回、第4回）。用途にあったグラフを使えば読みやすさは向上します。

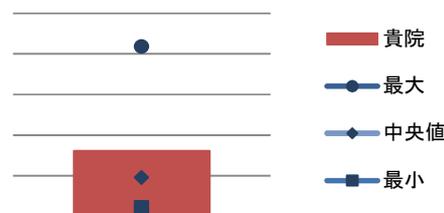
一方、立体表示や省略した悪いグラフ例も紹介しました（第5回）。悪い例を避ければ読みやすくなります。

ところで、これまでのポイントだけで本当に読みやすくなるでしょうか？

例えば、病院間のベンチマーク統計などでは下図のようなグラフを見かけます。用途が合っても数十～数百の要素を詰め込まれると読みにくくなります。さらに並び順がバラバラで色の強調も無いとき「貴院」をすぐ探し出せるでしょうか？



これを読みやすくするには、内容を「要約」して最小限の情報に抑えると読みやすくなります。



病院の立ち位置を伝える場合、上図のように最大・最小、中央値の3つに絞った比較でも十分に表現できます。他にも「同規模の5病院と比較」など要素を減らすことで読みやすくなります。「伝えること以外は取り除く」と考えてシンプルなグラフを心がけましょう。

次回からは統計の「要約」の手法の一つ「記述統計量」を綴っていく予定です。

医療情報企画センター SE 佐藤洋之

次号（第7号・12月発行予定）のご案内

今回は引き続き指標紹介「リハビリテーション実施率」「統計のはなし」No.7を予定しています。

